

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイオライトVita		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性に真摯に向き合った個別支援計画の作成。	関わりの中で小さなエピソードや余暇時間の様子をスタッフ間で共有し、その時々での発達過程に合わせた支援計画の作成を心掛けている。支援計画は必ずスタッフ間で共有し、発達や特性に合った計画が作成されているか確認を行っている。又、保護者様にはどのような意図で支援計画を立てているのか、丁寧に説明を行っている。	面談や日々のフィードバックなどを通じて、保護者様の思いや願いを汲み取り、次の個別支援計画へ繋げていく。そこにスタッフが支援する中での成長の気づきや様子を加え、これから個々に合ったオーダーメイドの支援計画の作成に努めていく。
2	一人ひとりに合わせた多様なプログラムや課題の設定。	一人ひとりの個別対応を行うことで、その日その時の状態に合わせた支援を行えている。スタッフ間で情報共有や相談・見直しを随時行ったり、取り組んだプリント教材類をいつでも見返すことが出来るよう個々にファイリングしたりすることで、偏りなく質の良い療育を提供できるよう努めている。	これまでも様々な研修に参加し、スタッフ間で共有を行ってきた。今後もスタッフの知識や質を上げていけるよう、積極的に研修へ参加し、療育へ繋げられるよう努めていく。
3	清潔且つ広く確保した療育スペースと環境整備。	毎日の清掃に加え、玩具や集団で過ごす部屋のマットや机・椅子も定期的にアルコール消毒を行っている。又、好きな活動の選択が出来るよう玩具棚に写真を掲示したり、すぐに使用可能な玩具をイラストで掲示する等、視覚支援も多く取り入れている。	常時、選べる玩具だけでなく、イレギュラーなタイミングで遊べるものや、年齢・発達に合わせた玩具を用意し、常に楽しんで取り組めるような工夫を行っていく。興味・関心を知るために、さらに積極的なコミュニケーションをはかり、環境設定するための事前のリーサーチも心掛けていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難計画やマニュアル等をファイルに綴じて設置しているが、あまり周知されていない。	避難計画やマニュアルを用意し、事業所の玄関に掲示や設置しているが、送迎時の短い時間では手に取りづらい。又は設置や掲示に気づきづらい可能性がある。	送迎時のフィードバックを行った際、保護者様へマニュアル等の設置があることを改めて口頭でお伝えする必要がある。
2	保護者様同士のコミュニティの場や地域との交流が少ない。	保護者様同士のプライバシー問題について、どの程度の関与が行えるのが難しい。地域との交流の点では、地域の催し日時と事業所の営業日・お子様の利用時間が合いづらい。	地域のイベント等を把握し、保護者様やお子様になアナウンス出来るようにする。
3	保護者様を介して、保育所や幼稚園、認定こども園との連携はとっているが、そのような対応ができるという情報の共有や周知をする機会が少ない。	日々のフィードバックのみで終わってしまっていることが多いから。	保護者様からのご相談がないときでも、定期的に園での様子を聞き取り、保育所や幼稚園、認定こども園といつでも連携することができる体制があることを折々にお伝えしていく。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイオライトVita		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性に真摯に向き合った個別支援計画の作成。	関わりの中での小さなエピソードや余暇時間の様子をスタッフ間で共有し、その時々が発達過程に合わせた支援計画の作成を心掛けている。支援計画は必ずスタッフ間で共有し、発達や特性に合った計画が作成されているか確認を行っている。又、保護者様にはどのような意図で支援計画を立てているのか、丁寧に説明を行っている。	面談や日々のフィードバックなどを通じて、保護者様の思いや願いを汲み取り、次の個別支援計画へ繋げていく。そこにスタッフが支援する中での成長の気づきや様子を加え、これからも個々に合ったオーダーメイドの支援計画の作成に努めていく。
2	課題プログラムが固定化しないよう、年間スケジュールの作成。	現在の困りごとから、今後起こり得るであろう事例・身につけておくべき対応方法等、月ごとに様々なテーマを決め、生活の中での幅広い場面を想定した内容を取り入れている。毎回振り返りシートの記入も行き、学習内容のフィードバックを行っている。	今後も、使用するワークシートを様々な書籍から参考にしたり、ロールプレイやゲームを通した気付き・学びが出来るよう工夫したりすることで、認知度に合わせた課題プログラムを作成していく。
3	清潔且つ広く確保した療育スペースと環境整備。	毎日の清掃に加え、玩具や集団で過ごす部屋のマットや机・椅子も定期的にアルコール消毒を行っている。又、他児とのコミュニケーションを取れるようなゲームを取り入れ、余暇の中でも他者と関わりをもてるような環境設定を行っている。	常時、選択できる玩具だけでなく、イレギュラーなタイミングで遊べるものや、年齢・発達に合わせた玩具を用意し、常に楽しんで取り組めるような工夫を行っている。興味・関心を知るために、さらに積極的なコミュニケーションをはかり、環境設定するための事前のリサーチも心掛けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難計画やマニュアル等をファイルに綴じて設置しているが、あまり周知されていない。	避難計画やマニュアルを用意し、事業所の玄関に掲示や設置しているが、送迎時の短い時間では手に取りづらい。又は設置や掲示に気づきづらい可能性がある。	送迎時のフィードバックを行った際、保護者様へマニュアル等の設置があることを改めて口頭でお伝えする必要がある。
2	保護者様同士のコミュニティの場や地域との交流が少ない。	保護者様同士のプライバシー問題について、どの程度の関与が行えるのが難しい。地域との交流の点では、地域の催し日時と事業所の営業日・お子様の利用時間が合いづらい。	地域のイベント等を把握し、保護者様やお子様アナウンス出来るようにする。
3	保護者様を介して、学校との連携はとっているが、そのような対応ができるという情報の共有や周知をする機会が少ない。	日々のフィードバックのみで終えてしまっていることが多いから。	保護者様からのご相談がないときでも、定期的に学校での様子を聞き取り、いつでも学校と連携を取ることが出来る体制があることを折々にお伝えしていく。